



- ❶ かかしとすずめ。楽しそうに^{もみ} 粃を食べるすずめの様子が伝わってくる
- ❷ 籠をてんびん棒につるして苗を運ぶ苗運び。首をかしげる様子や足の運びに愛嬌がある
- ❸ 唐傘を足踏み脱穀機に見立てた脱穀作業。演技手の息の合った踊りは、見どころの一つ
- ❹ 本来は小学3年生が主体だが、現在は、児童数の減少により2～6年生が演じている。上級生から下級生へ指導することで、学年を超えた交流も生まれている

奥州遺産

―ときを越え

受け継がれるもの―

第133回

白山子ども百姓踊り

〓前沢白山地区〓

かすりの衣装を身にまとった子どもたちが、畔塗^{くろぬ}りから収穫までの稲作農事を、軽快な音楽に合わせて愛嬌^{あいぎょう}たっぷりに舞い踊る白山子ども百姓踊り。

その歴史は平成3(1991)年、当時の白山小学校3年の担任が水沢農業高校民舞同好会の踊りをアレンジし、子どもたちに指導したことから始まった。以降、授業の一環として代々3年生が踊り、学校の学習発表会などで披露してきた。

平成26年に白山小学校が閉校する際、地元の高い希望により白山地区振興会が引き継いだ。現在も、白山地区に住む小学生が地区敬老会や文化祭、市郷土芸能祭に毎年出演している。

児童数の減少や放課後活動の多様化により練習時間の確保が難しい中、子どもたちは、踊りを通じて稲作の歴史を学び、収穫に感謝する心を育んでいる。

今年もまた、東稲山を望む黄金色の田んぼには、収穫を迎えた農家の安堵^{あんど}と喜びの音が響く。

広 告